伊予市
じんけん教育

2020
No.31

一人ひとりの人権が尊重される
明るい伊予市をめざして

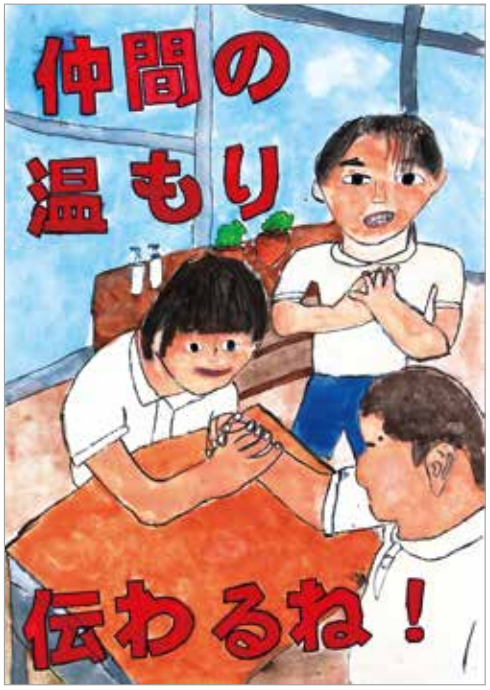
●編集・発行
伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113　伊予市米湊 820 番地
TEL 089-982-5155　FAX 089-982-5156

伊予市人権啓発作品（最優秀）の紹介

今年度も人権啓発・人権意識の高揚を目的として人権啓発作品を募集したところ、たくさんご応募いただきありがとうございました。応募数は、小学生２９８点、中学生85点、高校生10点、成人１６３点、総数５５６点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様おめでとうございます。

人権ポスター　最優秀作品　小学生

下灘小４年　栗坂 侑愛



中山小６年　新岡 若奈

中山小５年　沖野 苺香

人権ポスター
最優秀作品
中学生
高校生

伊予中３年　谷岡 沙恵

伊予農高１年　豊田 光歌星

中山中３年　堂本 愛純

人権詩
最優秀作品

友だちのいいところ

郡中小学校　４年　林　美奈都

たすけてくれたこと
しんせつにしてくれたこと
「あそぼうよ」とさそってくれたこと
わらわせてくれたこと
「ありがとう」といったらわらってくれたこと
わからないことをおしえてくれたこと
ぜんぶともだちのいいところ
つぎは、わたしのばんだ

友達とは

伊予小学校　５年　川口　稚代

逆上がりにちょう戦しても全くできない
そんな日がずっと続いた
独りで落ちこんでいたら
友達が声をかけてきた
私に逆上がりを教えてくれた
私は逆上がりができるようになった
私はとっても喜んだ
友達も私の成功をいっしょに喜んでくれた
友達とは何かが分かった
友達とは　いっしょに楽しく遊んだり
楽しくしゃべったりするだけじゃない
友達とは　自分の心の支えになって
はげまし合って　自分の成功のように
心から喜べる
そんなかけがえのない存在だ
私はあの友達のように
相手の成功を自分の事のように
心から喜べる　そんな人になりたい

一人一人違う

伊予小学校　６年　前野　凌音

世界中には、たくさんの人がいる。
背が高い人もいれば、低い人もいる。
肌が黒い人もいれば、白い人もいる。
瞳が青い人もいれば、茶色い人もいる。
ある人の考えをいいなと思う人もいれば、
それは違うと思う人もいる。
日本人は、
はっきりものを言わないと言われるが、
順番を守り、礼儀正しいとも言われる。
外国人にも、きっと短所も長所もある。
外国人って言うけれど、
外国人から見た日本人って
みんな外国人だよね。
考えていること、
習慣、
言葉、
たくさんの違いがあって、
すてきな個性！

絆のバトン

双海中学校　３年　長谷波　真将斗

君がいじめられるようになった
僕は見ているだけでなにもしなかった
君が悪口を言われていた
僕はただ聞いているだけだった
君はどんなことをされても
僕らには優しかった
僕らの前ではいつもの君だった

今度は僕がいじめられるようになった
友達は何もせずただ見ているだけだった
僕は悲しくなった　さみしくなった
その時君は僕を助けてくれた
君に何もしなかった僕を助けてくれた
うれしかった　泣きたいくらいうれしかった

誰かがいじめられていた
僕は勇気をふりしぼって助けに行った
君があの時してくれたように

人権作文 最優秀作品

気づいたら

伊予小学校　４年　森口　杏璃

私の友達のAちゃんは、かくれてBちゃんに悪口を言われていました。そしてある時Bちゃんが私に「Aちゃんのこと好き。」と聞いてきました。その時、私はどう答えていいかまよいました。Aちゃんのことが好きだったのにBちゃんのいきおいにおされてしまって「そこまでは…。」と答えてしまいました。今の自分ならそんなことを聞いてきたBちゃんに、「何でそんなこと聞くん。」とまずおこって、その後に自分に「ひどい。」と言いたいです。でも、その時の私はそういうふうに言えませんでした。

そんな私のまよいや心の中のことを知らないBちゃんは、私にたくさん話しかけてきて何でもいっしょにしようね、という感じになりました。Bちゃんは、私もAちゃんのことがきらいなんだと感じたのでしょう。でも、それからの私は少しいらいらしてきて、だんだんBちゃんに話しかけられても相手にしないようになりました。Bちゃんも何となくそれに気づいたのか、私からはなれて他の人のところに行って話したり、行動したりするようになりました。

自分がしたこととはいえ、私は、始めからあんなことしなかったらよかった。友達なのにAちゃんにもBちゃんにも結果としてひどいことをしてしまった。「こんな性格だったら私が一番きらわれるんじゃないか」と思い落ちこみました。

この体験から、私はこんなことはやめようと思いました。今まで仲良くしていた人だけでなく、今まではあまり仲が良くなかった人にも同じように友達として接していこうと思いました。

自分にとってはささいなことでも、される側の子にとっては、いじめと感じきずつくし、自分が反対にその立場だったらと考えると本当につらいと思います。だから、この子は仲がいいからやさしくして、この子はきらいだから仲良くしないという差別をこれからはぜったいになくします。

私は今までも悪口を言ってはなかったけれど、知らず知らずに言ったりしたりしていることで相手をきずつけていたかもしれません。それに気づきました。でも、気づいた今からが大切なのだと思います。「悪いこと」をしたな、と気づいたら、すぐあやまって、行動を直します。「気づいたら」そこからが大切なのだと思います。

大切な命

北山崎小学校　５年　森本　桃華

わたしの家では、ハムスターを飼っています。エマとハナ。オスとメスのペアです。そのハムスターに、赤ちゃんが5ひき産まれました。ケージのすみで、いつもいっしょにかたまっている小さな命たちは、すごくかわいかったです。わたしも妹も大喜びしました。そして、大切にお世話して、大きくなってほしいと願いました。

赤ちゃんは、すくすくと、成長しました。2か月くらいたつと、親と見分けがつかないくらいの大きさになりました。ところが、このころになると、少しずつ、赤ちゃん5ひきの大きさに、差ができてきたのです。そして、何と、一番体の大きなハムスターが、一番小さなハムスターをいじめていたのです。

「ママ、この子、つつかれたりふまれたりしているよ。だいじょうぶかな。」

わたしはびっくりして、お母さんに知らせました。でも、どうすることもできず、わたしが気付い

た次の日に、その小さな子は、死んでしまいました。とても悲しかったです。とても小さな命をもって産まれてきたハムスターが、かわいそうでなりませんでした。もう二度とふまれないように、庭のうらの木の下にお墓を作りました。

　いっしょに産まれてきた兄弟たち。なんで、一番小さい子をいじめるのかな。でも、動物の世界ではめずらしくないのだと、お母さんに聞きました。生きていくために、自分が少しでも大きくなるために、一生けんめいだったんだと思います。

　わたしは、このことがあってから、いっそう、この世界にいらない命など一つも無いのだということを思うようになりました。あの小さなハムスターが死んでしまってでも、こんなに悲しいのです。生きているということは、それだけでとても幸せなことなんだと思いました。赤ちゃんハムスターに、「いじめはだめだよ。仲良くしなさい。」という言葉は通じなかったけれど、友達になら通じるから、「みんな大切な命」「いじめをしないでなかよくしよう。」ということを伝えていきたいと思いました。

　わたしのお母さんは、毎朝、学校に行くとき、「気を付けてね、いってらっしゃい。」と、声をかけてくれます。わたしのことをすごく大切に思ってくれているんだと感じる一言です。だから、わたしも大きな声で、「行ってきます。」と、答えます。自分の命を大切に、気を付けて学校に行って、帰ることができるおまじないです。家族は、わたしたちのことを、無事に帰ってくるよう待っています。「だいじょうぶだよ、安全に気を付けるからね、友達と仲良く、勉強がんばるからね、安心して待っていてね。」と伝えたいです。

「ふつう」って何だろう

伊予小学校　６年　水本　栞蓮

　「ふつう」って何だろう。みんなと同じであることが「ふつう」なのだろうか。

「ふつうじゃない。」

「ふつうにしなさい。」

「ふつうはできるやろ。」

　私はよくこんな言葉を聞く。これまでは大して変だなと感じることはなかったが、あることをきっかけにこの「ふつう」という言葉が私にはひっかかるようになった。それは、ある一冊の本との出会いだ。「ふつうって何だろう。ＬＧＢＴ」この本には、人がもつ個性について書かれてあった。男の子や女の子という言葉しか知らなかった私は、同性愛者の人や体と心がちがっている人がいることにとてもおどろいた。しかもその割合は、左利きの人と同じくらいだという。私も左利きの人はたくさん知っている。でも、ＬＧＢＴの人は知らない。私の周りにもＬＧＢＴの人はいる可能性は大いにあるのに。私が思っていた「ふつう」って何だったのだろう。ＬＧＢＴの人たちも同じ人間だから当然「ふつう」だ。「ふつう」って簡単に使ってはいけない言葉ではないかという気持ちになった。

　そう考え始めてみると、私にも「ふつう」について考えた体験があることを思い出した。低学年のとき、入学式や卒業式で席に座っていると、「ふつうはだまってすわっているものよ。」と先生やお母さんに言われたことがあった。周りには、楽しそうに話す子や眠ってしまう子もたくさんいた。その時は、その言葉をあまり考えずに受け入れていた。でも、あの子たちは「ふつう」ではなかったのだろうか。

今も昔もいじめの問題はある。その理由を、「自分たちとはちがっていてふつうじゃないから」と言う人がいた。みんなと同じことをしていないと「ふつう」ではいられないわけなんてない。例えば、私が着物を着て学校に登校したとすれば、きっとみんなおどろくだろう。みんなとちがうから「ふつう」ではないことになる。でも、もし江戸時代にワープしたらどうだろう。周りはみんな着物を着ているのだから、「ふつう」になる。周りの環境によって「ふつう」が変わるのだったら、私はカメレオンのように周りに合わせて生きることをしていかないといけない。そんなの絶対いやだ。

この本と出会ったことで、私は、世の中に「ふつう」は存在しないと思うようになった。誰もが個性を持っていて自分とはちがう。それを変だと思うことがまちがっているのだ。私はこれから様々な人に出会ったり、様々な環境で過ごしたりすることになるだろう。時には変だなと思ったり、おかしいと感じたりすることもあるかもしれない。でも、今のこの気持ちを忘れず、みんなの個性を受け入れることが当たり前にできる人になりたい。

伝えること

港南中学校　3年　對馬　光汰

「正しいことを伝える」、大切なことだと教わってきた。大切だと分かっていた。今の僕なら分かるであろう。「正しいこと」とは。

中学2年の冬、僕は有志として人権委員会に入り、人権フェスタでハンセン病の発表をした。活動の中で学んだ知識や、療養所での体験を発表した。僕は、正しい知識を伝えることができた。たくさんの生徒や、参加された、たくさんの地域の方々に伝えることができた。でも、一生懸命発表する中にある、僕の思いは口に出さなかった。

僕に差別をなくしたい「思い」はあった。しかし、自分の「活動」に僕は満足していたのだ。それは、中学3年の夏まで続いていった。

今年も人権委員の募集があったとき、ぼくは正しい知識を伝えたいという思いで参加を決めた。差別を無くすため、知識を広めることを目標として頑張ることを決意した。

そんな中参加したのが、伊予市の夏祭り、「伊予彩まつり」のパレードでの、人権標語カード入りティッシュ配りだった。全校生徒一人ひとりの思いが込もった人権標語のイラストカードを、たくさんの地域の方々に配った。

僕は最初、緊張していた。ちゃんとティッシュを受け取ってもらえるか不安だった。このときの僕は、伊予市の人に小さな偏見を抱きかけていた。完全に信じることができなかったのだ。

でも、そんなことはなかった。どの人も笑顔でティッシュを受け取ってくださった。ティッシュを配るたびに、笑顔が生まれていた。この笑顔に僕の小さな偏見、緊張は消えていった。ティッシュ配りをする中で人と人とのつながりが生まれていくのを感じていた。このとき、僕は自分が「思い」を伝えていたことに気付いていなかった。

このことに気付いたのは、8月下旬にあった「部落問題を考えるフォーラム」だった。一生懸命話してくださり、僕はそこで初めて「思い」を伝えることの大切さを知った。僕は話してくださった人から、たくさんの考えや意見、そして思いを受け取ることができた。

このような夏の経験を通し、僕には人権委員会で活動を続ける理由が生まれた。以前の正しい知識を伝えたいという理由から、知識だけではなく、正しい意見や考え、思いを伝えたいという理由に変わった。これが、僕が考える「正しいこと」である。

正しいことを伝えることは大切である。しかし、その正しいことが何か、ということについてよく考え、深めることも大切なのではないだろうか。それができるからこそ、伝えていくことができるのである。

僕は、正しいことを伝えるということの、本当の意味を理解した。まずは、何を伝えていくのか。考えを深めよう。今年の人権フェスタで、差別を無くしたい「思い」を伝えるために。自分のできることをひたすら取り組んでいきたい。

人権標語　最優秀作品

◆うれしいことをみんなにかえそう
佐礼谷小　1年　福岡　紬

◆「だいじょうぶ？」　ぼくから　先に
言いたいな
北山崎小　2年　加藤　嘉人

◆きくことも　考えることも
あなたができる思いやり
伊予小　3年　早瀬　蓮介

◆見つけよう　君の・ぼくの　いいところ
郡中小　4年　高田　悠生

◆見つけたよ　友達のいい所　またひとつ
北山崎小　5年　福田　真央

◆ぼくたちの　笑顔でつなぐ　心の輪
北山崎小　6年　坪田　仁

◆胸に手をあて　たしかめよう
自分の行動　相手の心
中山中　1年　金山　鈴奈

◆聞いてほしい私の思い　聞かせてほしい
あなたの思い
双海中　2年　川西　ののは

◆思いやり　つなげば広がる　笑顔の輪
港南中　3年　井ノ口　万由子

◆見ないふり　知らないふりが
いじめ生む
伊予農高　2年　安田　康太朗

◆していませんか　言葉の暴力、無関心
伝えていますか　感謝の言葉
「ありがとう」
南山崎小ＰＴＡ　鶴間　栄子

優秀入賞者

人権ポスターの部

由並小	4年	武田　美姫
下灘小	4年	濵田　大和
北山崎小	5年	武田　向陽
郡中小	5年	村上　律仁
中山小	6年	下柳　花心
下灘小	6年	中野　息吹
港南中	1年	中西桜音葉
中山中	3年	下柳　花音

人権詩の部

北山崎小	4年	栗田ここな
由並小	5年	中村　凌
港南中	3年	對馬　光汰

人権標語の部（児童・生徒）

郡中小	1年	片上　憬人
伊予小	1年	今井　玲那
北山崎小	2年	山下　世那
下灘小	2年	三井　朝喜
郡中小	3年	吉岡孝太郎
下灘小	3年	関木　柚
南山崎小	4年	池内　梨心
由並小	4年	吉田　悠斗
郡中小	5年	末光　哲理
伊予小	5年	上野　瑞歩
郡中小	6年	横山　哩玖
郡中小	6年	壬生　朋花
港南中	1年	桂　和人
双海中	1年	中島ヒカル
港南中	2年	井上　仁
伊予中	2年	戸田　渚
港南中	3年	香西萌々子
双海中	3年	松岡　絆
伊予農高	3年	片岡　愛音
伊予農高	3年	徳丸　あゆ

人権作文の部

南山崎小	4年	森下　湖春
中山小	5年	沖野　苺香
郡中小	6年	鵜久森ゆり
伊予中	2年	河端　美花

人権標語の部（成人）

北山崎小ＰＴＡ	大井由美子
郡中小ＰＴＡ	木内　裕子
伊予小ＰＴＡ	奥山みのり
伊予小ＰＴＡ	田頭るみ子
中山小ＰＴＡ	沖野　浩文
佐礼谷小ＰＴＡ	松岡　綾
佐礼谷小ＰＴＡ	亀田　忍
翠小ＰＴＡ	曽我部美樹
由並小ＰＴＡ	吉田　真也
下灘小ＰＴＡ	関木　裕美
下灘小ＰＴＡ	和気ゆかり
港南中ＰＴＡ	清家　麻里
港南中ＰＴＡ	森本ひろみ
伊予中ＰＴＡ	河野　宏明